

甲 第 号

田中 伯 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	高橋 裕
論文審査担当者	委員	教授	川口 昌彦
	委員(指導教員)	教授	中瀬 裕之

### 主論文

Impact of surgical factors on delayed hyponatremia in patients with nonfunctioning pituitary adenoma after endonasal endoscopic transsphenoidal procedure

非機能性下垂体腺腫における経鼻内視鏡下経蝶形骨洞手術後の遅発性低ナトリウム血症の手術因子の検討

Haku Tanaka, Fumihiko Nishimura, Kenta Nakase, Miho Kakutani, Shohei Yokoyama, Takayuki Morimoto, Taekyun Kim, Young-Soo Park, Ichiro Nakagawa, Shuichi Yamada, Kentaro Tamura, Ryosuke Matsuda, Yasuhiro Takeshima, Masashi Kotsugi, Hiroyuki Nakase

Endocrine. 2022 Nov;78(2)354-362. Epub 2022 Aug 19

## 論文審査の要旨

本研究は発症関連因子が十分明確になっていない下垂体手術後の遅発性低ナトリウム血症について、非機能性下垂体腺腫に対して経蝶形骨洞腫瘍摘出術が行われた連続 137 例を後方視的に検討したものである。結果として、遅発性低ナトリウム血症は 22.6% に発生し、多変量解析の結果、高血圧の無い群において遅発性低ナトリウム血症を有意に発症しやすいこと、また一過性尿崩症の合併、髄膜炎の合併、硬い腫瘍がそれぞれ有意に関連した。遅発性低ナトリウム血症は時として重篤な合併症を招きうるため、関連因子を明らかにし予防、早期発見及び適切な治療に結びつけることは非常に重要である。公聴会では、遅発性低ナトリウム血症の検査体制、退院のタイミングやフォローの仕方について、治療法について、高血圧がない場合に起こりやすい機序について、また中枢性尿崩症との関連について、研究デザインにおいて機能性下垂体腫瘍を除いた理由、下垂体への愛護的操作の意味についての質問がなされたが、いずれも適切な考察に基づき的確に答えており、学位研究の成果が認められた。

本研究は、遅発性低ナトリウム血症の病態解明、予防に結びつきうるという意味で医学的に極めて有用な論文であると考えられ、主論文の内容と公聴会での質疑、および参考論文と併せて審査委員全てが適と判断し、博士(医学)の学位授与に値すると考える。

## 参 考 論 文

1. Primary Central Nervous System Post-transplant Lymphoproliferative Disorder  
Misdiagnosed as Glioblastoma: A Case Report  
Haku Tanaka, Ryosuke Matsuda, Mitsutoshi Nakamura, Ichiro Nakagawa,  
Hiroyuki Nakase Anticancer Research. 2022 Aug;42(8):3975-3979

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに脳神経機能制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和5年3月7日

学位審査委員長

糖尿病・内分泌内科学

教授 高橋 裕

学位審査委員

侵襲制御・生体管理医学

教授 川口 昌彦

学位審査委員(指導教員)

脳神経機能制御医学

教授 中瀬 裕之